

武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会

第9回 議事要旨

日時 平成26年7月22日(火) 午後6時30分～

場所 かたらいの道市民スペース 会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 第8回議事録の確認

ー特に意見なし、各自確認

(2) 中間提言に対する意見について

■委員長

- ・資料2の内容に基づきながら議論したい。その際、正副委員長で対応の案について資料3として整理させていただいたので、この内容も参考にさせていただきたい。
- ・事務局の説明について補足すると、この資料3は、資料2の1番上の「中間提言・地域フォーラムについて」に記載されている内容と、真ん中の「再確認が必要な検討課題」に記載されている内容の一部が、中間提言に関係する内容である。これら以外の内容については今後の検討委員会の議論の題材としたい。
- ・中間提言に対する意見でポイントとなるのは、まず「課題解決」という点である。地域コミュニティの定義としてどうかという意見や、地域フォーラムで課題解決まで踏み込むのは難しいのではないかと、といった意見が出された。また、地域フォーラムについてコミュニティ協議会が主催・運営するという案としていたが、それに対して様々な立場から負担感も含めて懸念が表明されている。さらに中間提言の段階で見落としとしていた点として、行政の役割として学びの場を提供することが必要であるとのご指摘をいただいている。また、自主三原則をどう捉えるかについてもさまざまな意見が寄せられた。
- ・こうした指摘を踏まえて正副委員長で話し合いをした結果、改めて次の点が明らかとなった。すなわち、コミュニティ協議会におけるコミュニティ活動は、コミセンを中心に必ずしも課題解決に直結する内容だけではなく、何かの時には役立つということを想定した上での、地域の基本的な交流・関係づくりに関する内容も含まれる。そのため、この中間提言は、コミュニティ協議会の活動を課題解決を目指した内容に変えていくという趣旨ではなく、コミュニティ協議会をはじめとして様々な団体を含めた広い意味での地域のコミュニティが地域の課題に対処するときどのような連携・ネットワークを構築していくのか、ということテーマとしたものであり、この点を改めて中間提言の内容として明確にすることが望ましいと思われる。それによって、地域フォーラムが定期的で開催しなければならないもの、ではなく課題がある度に都度開催するものとの位置づけもより明確になるのではないかと。
- ・このように全体を整理すると、コミュニティの定義についても、コミュニティ条例の各コミュニティの定義はそのままとした上で、地域全体の課題解決のためのネットワーク

としての「地域のコミュニティ」を定義していると整理することが可能となる。結果的に、コミュニティ協議会の「仕事が増えるのではないか」といった懸念も払拭可能である。

- ・地域フォーラムの運営主体について、コミュニティ協議会が担わないとすることはあり得ないと思うが、すべての責任をコミュニティ協議会が担わなければならないのではなく、地域課題に直接関係の深い団体が運営に携わることもあっては良いのではないかと感じている。
- ・以上のような考え方や、その他の内容を見て個別に感じた意見、本日配布された地域社協代表者会議からの意見などについてご意見をいただいた上でとりまとめをしていきたいと思う。

■委員

- ・本日配布された資料について簡単に補足したい。
- ・パブコメで出た意見や意見交換会で出た意見は、中間提言に対する理解が十分でない結果であるように感じているが、地域社協からの意見についても同様の傾向がある。
- ・地域社協からの意見について、大きく「現状」「フォーラムについて」「行政との関係」「利用者について」「その他」の5項目にまとめて説明したい。
- ・まず、現状について、これまで自主三原則があったから、うまくいったのではないかというご意見や、コミセンのつながりがあったから地域社協ができたという意見、またただの部屋貸しになっているという指摘があるが、コミセンの人は一生懸命やっているのだという意見があった。
- ・地域フォーラムについては、コミュニティ協議会の負担が大きくなるのではないか、活動が縮小されてしまうのではないか、フォーラム自身は別のコーディネーターで実施した方が良いのではないか、今の運営ではまずいのか、といった意見が出された。また、地域フォーラムに行政が入るのは反対という意見が出された。
- ・行政との関係については、地域によって状況が違うということを行政は把握しているか、行政内が縦割りになっていることから行政の連携がとれていないのではないか、という意見があった。
- ・利用者については、タダの部屋を借りているだけで、地域コミュニティについて考えているのだろうかという意見もあった。
- ・また、その他について、これまでも様々な検討がなされていたが実施されておらず今回も同様の懸念があるという意見があったり、検討会にコミュニティ協議会関係者が多く、コミュニティ全体について議論するよう留意してほしいといった意見、エリアの問題に関する意見、また中間提言のコミセンへの配布数が3冊しかなく足りないのではないかといった意見もあった。

■委員

- ・研連でも、各コミセンごとに意見をまとめるという動きをしていたかと思うが、その結果はどうか。

■副委員長

- ・各コミセンからは、具体的な内容が見えてこないために、どのように地域フォーラムを実現すれば良いのかが分からないという不安が一番多かった。

- ・それに対して地域ごとにやり方は異なって良いと考えている。また、吉祥寺西コミセンでは様々な団体が一堂に会する「地域懇談会」をすでに6年間にわたって実施されているということであり、こうした機会を活用しながら、フォーラムという形にとらわれることなく、実施していくことが負担もなく良いのではないかと、という説明も行っている。
- ・すべての運営委員がどのような意見を持っているのかということまでは、研連としても把握していない。

■委員

- ・各コミセンは利用者懇談会を実施していると思うが、それを少し拡張したのと考えても良いのではないかと。

■副委員長

- ・やや目的が異なる。利用者懇談会は利用者意見をコミセンの運営に反映したいという内容である。地域懇談会は、地域の課題について話をするという場であったので、比較的フランクに話し合いが進んでいるように感じた。
- ・一堂に会することが大事であって、きっかけは何でも良いと思う。

■委員

- ・関前では、地域運動会、どんと焼きなど各団体が共催で実施しているものがあり、これを地域全体で呼びかけていけば、フォーラムと固く考えずに良いのではないかと。

■副委員長

- ・地域全体について、ということだけを意識していけば、きっかけはどのようなものでも良いと思う。

■委員長

- ・地域フォーラムを協議会の活動の中で位置づけるのではなく、地域で共通の課題が出たときに一堂に会して相談しましょうという会議体であるとした方がより内容が明確になるだろう。
- ・地域や状況に応じて開催してはどうか、という提言内容に整理した方が良く、コミュニティ協議会の活動にプラスされるものといった誤解は受けないようにする必要がある。

■副委員長

- ・西久保では、子どもの連れ去り未遂事件があり、話し合いが必要ということで多くの団体に集まっていたように見える。そのときに、シルバーの方が自分たちが見守りをしましょうということを提案されたようであるが、そういうものでも良いのか、という意見が、代表者会議でも出されている。

■委員

- ・私が所属しているコミセンでは、中間提言について意見交換を行った。そこで出された問題点は2点あり、1点目はコミュニティ協議会が地域フォーラムの運営を担えるのかという点である。2点目は行政の関与について、絶対に地域フォーラムに参加すべきではないという意見と、自主を尊重する範囲で関与すべきという意見の双方があった。
- ・27日に委員長にお越しいただくことになっており、その後また話し合いを行いたいと考えている。

■副委員長

- ・行政が参加しない方が良いのではないかと、という意見は、パブコメなどでも見られた。

従来のコミュニティ活動は行政が関与せずでしたが、今回考えているような課題を解決するための活動は行政との関係性が深い。そのため、協議を円滑にするためにも、また、事実関係を明確にする観点からも、行政が参加した方が良いと思う。

■委員

- ・こうした検討結果に対してこれだけ反響が出たことはかつて記憶がない。それはよかったことであるが、結果として抽象的な表現にならないかと危惧している。

■委員長

- ・コミュニティ協議会は、地域の関係づくりに取り組んできており、そこに行政が関与すべきではないということは筋が通っている。
- ・一方で、地域のコミュニティで課題解決を考える場合、そこに行政が関与しないのは適切ではない。もちろん、行政が「こうすべき」という形で関与することはすべきではなく、市民意見交換会で高田先生が「コンパクト」などの話をしていたように、行政が関わらないと課題解決できないときに、市民の側の主体性を損なわずに関係を築く新しいルールを構築することは重要だろうと思う。
- ・これは、自主三原則を見直すということではなく、その精神を別の「ステージ」でどのように大事にしていくかということであり、新しい課題が出たときに新しい工夫が必要であるという形で整理すべきだろうと思う。区域と自主三原則の問題についてはあまり踏み込むと整理がつかなくなるので、こういう観点で新しい課題が出ており検討が必要、というレベルでとどめておくのが良いと思う。

■委員

- ・今月 13 日の日曜日に、「とことこ」と市と共催でタウンミーティングを開催した。
- ・「子どもと子育て」に関する課題として、団体として、行政として、住民として解決しなければいけないことは数多くあるとそれぞれが感じている中で、参加を呼びかけると園長先生や議員や地域の子育て支援の関係団体などの参加を得られた。
- ・その場ではグループディスカッション形式で議論をすることとし、当事者の母親も同じ場で課題を出し合って、それをとりまとめて市長の前で発表して、そこに子ども家庭部も参加する、という形態であった。これこそが、我々が言っていたフォーラムの形であろうと思う。
- ・これをもし、団体だけで呼びかけていたらここまでの参加者は得られておらず、市との共催であったからこそ、さまざまな団体が参加し、さらに市の担当者も参加したのだろうと思う。
- ・コミセンの普段の活動の中では行政は関与すべきでないと思うが、フォーラムをきちんと開催し、その内容を身のあるものとするためにも、課題の該当部署と共催の形を取るなど、行政関与が不可欠だろうと思う。

■委員長

- ・市民が市民で解決できるものと、そうでないものを区別した方が良いという意見があった。この点が重要なことであろうと思う。
- ・協議会が日頃の活動の中で対応しているところに行政がわざわざ出向くことはなく、課題解決との絡みの中で行政も関与して他の団体も関与した方が良いときに、フォーラムを開催するということであり、協議会活動に上乘せするという整理は一切やめた方が良

い。また運営方法についてもオープンにしておいた方が良いでしょう。

■委員

- ・地域フォーラムを協議会活動に上乘せするというなかには、定期的開催という意図もあった。しかし、開催を自由にすると、ある協議会では何回も実施しているが、ある協議会では5年間1回も開催されないということもあり得る。その点への対応は必要である。
- ・もちろん地域フォーラムをコミュニティ協議会の活動への上乘せとすると、地域フォーラムへの行政の関与がコミュニティ協議会活動への行政の関与となり反発が生じるので、そこはわけておくことが重要であるという意見ももっともである。

■副委員長

- ・できれば年に1回程度は開催した方がよく、必ずしもテーマがなくても集まる機会となった方がよい。例えば、吉西の地域懇談会のように、気楽に集まって普段悩んでいることなどを伝えるだけでも開催した方がよいのではないかと思う。

■委員長

- ・一方で特に地域で取り組むべき課題がないのであればあえて地域フォーラムを開催する必要はないのではないかと、との考え方もある。また、先ほどの西久保の例ではないが、連れ去りなどのはっきりした問題があれば、こうした仕組みがなくても地域で課題解決に向けて動きが進んでいくのだろう。
- ・地域フォーラムは課題がはっきりしたときに動くことを想定するが、そこまでではなく、課題がないかを確認する観点から開催してはどうかという2段階での提言もあり得るだろう。

■委員

- ・1年に1回くらいは集まった方がよいと思う。話題は何かしらは必ずあるだろう。
- ・フォーラムを開催した後に何かをまとめたり、処理したりすることへの負担感を感じているのだろうと思う。現在でも総会や利用者懇談会を開催しているわけであり、人を集めることは問題はなく、話し合いが大事なのだということを明確にしてあげれば、地域フォーラムを開催することに躊躇することはないだろうと思う。

■委員

- ・同感である。
- ・気楽な気持ちで開催することは非常に良いことだと思う。イベントを実施するので人の手配をお願いしたいなど、話すことはいくらでもある。

■副委員長

- ・こういうことを言われたら困るということを各コミセンは持っている。そうなったときにどのように対処すれば良いのかということを考え出すと、それなら止めておく、ということになってしまう。
- ・むしろ、そうしたことを地域に投げかけられるようにしたほうが良い。
- ・例えば地域社協からは活動拠点が無いという意見が多い。それについて、実はハードだけではなく、電話の引き継ぎのようにソフト的に解決できる可能性もあるが、今まではそうした動きがなかったため、引いてしまうのではないかと。

■委員

- ・フォーラムという言葉自体にも慣れていない。

■委員長

- ・課題解決のために意見交換するだけとするとやや位置づけが重くなり、気楽に開催してよい、ということも含ませた方がよい。
- ・地域全体でいろんな団体が集まる場を活用していきましょう、といった方がよいかもしれない。

■副委員長

- ・まず集まって話し合うということでも結果的に課題解決につながるという側面はあるだろうと思うが、課題解決するためだけに集まるということではないだろう。

■委員長

- ・提言の書き方として、コミュニティ協議会は地域の関係づくりに取り組み、各団体が行政との関係の中でさまざまな活動に取り組んでいる中で、それぞれが相互に情報交換できるような場をつくり、それが地域での課題解決の第一歩につながるような活用を図るものとして、地域フォーラムを構築し、そこに行政が参加していくという形で整理した方がよいかもしれない。

■委員

- ・この検討委員会の当初にコミュニティ協議会と課題別活動団体との関係がしっかりといていないのではないかという課題が指摘されて、そこから地域フォーラムという指摘も出てきた側面もある。
- ・目的別コミュニティとどのように融和していくかということであるが、先ほどの副委員長の指摘にあった「場所の確保」という事について、ソフト部分とハード部分の二つの面で、目的別コミュニティにアプローチしていかないといけない。場所がないと団体はコミセンを活用しない。
- ・南町であれば、小会議室があり、そこにさまざまな団体の書類を保管している。そこでその団体の集会スペースとして、月曜日の朝は福祉の会などと曜日別に割り振るなど、地域の目的別コミュニティに利用してもらおう仕組みづくりも必要ではないか。また、ソフト面でも、電話の取り次ぎなどについて、今後対応可能なものがないか、もう一度検討して行けば良い。こうした取り組みを行う中で、地域フォーラムの場所として、また進行役としてコミセンもより認知され利用されるようになるのではないか。

■委員

- ・地域フォーラム同士の横のつながりを考えていなかったように思う。定期的な情報交換会であるとか、そういったものが含まれても良いのではないかと思う。

■委員

- ・情報交換とか課題の共有ということは誰も反対しない。しかし、「課題解決」という言葉を下ろすかどうかは要検討である。課題解決のみにするとハードルは上がるが、課題解決もできれば目指していただきたいし、その旨は提言の中に残した方がよい。

■委員長

- ・提言のそのものの目的としては、地域のコミュニティでの課題解決を図っていく必要があるということが良い。それに向けて、各団体の結びつきが弱い面もあるため、その部分を埋めるための地域フォーラムという工夫ができないかという整理であろう。
- ・地域フォーラム自体を課題解決のためではなく、それをきっかけとして、最終的に課題

解決ができる地域のコミュニティづくり、という体裁にすることが良いのではないか。

■委員

- ・課題解決のためと書いているが、地域で解決すべき課題について話し合いができる場、とも記載されているため、「課題解決」という4文字に読み手が過敏に反応しただけではないかとも思っていた。
- ・また、課題を共有するということも記載されているため、問題ないのではないかと感じていた。

■委員長

- ・コミュニティ協議会はこれまで独自に、コミュニティの基盤づくりのような活動を、自主三原則に基づいて行ってきたが、その点と地域フォーラムにむけた取り組みとをうまく整理できていなかったように感じる。

■委員

- ・パブコメで提出された意見を見ると、意見を提示された方が本当に細かく内容を精査して出されているのだと感じる。

■副委員長

- ・私はパブコメについては褒めている意見を中心に読んだ。
- ・全体として感じることは、困っているときに持って行く場がない、とか、地域でばらばらに活動していたということについては、一緒になって話し合うことが大事ということについて賛同されているということであり、提言については総論としては良い内容だったのだろうと感じている。細部について、さまざまな不安や心配が寄せられているが、ここはやり方で整理できるように思う。

■委員

- ・地域別に課題があるのは当然であるが、例えば防災のように武蔵野市共通の課題もあるだろう。こうした課題についてはどのように取り扱うべきだろうか。

■委員長

- ・提言には直接関係ないと整理されている意見とも関係するが、共通の課題ということであれば、例えば地域コミュニティに参加している人を増やすということも共通の課題であるように思う。
- ・まず、資料3に記載の方針については概ねこの方向性で良いかを確認したい。問題なければ本日の意見も踏まえつつ、中間提言については見直しを進めていただきたい。

■委員

- ・コミュニティの中に学校や保育園や商店街などを出したが、そういう人たちが参加できていなかったところが参加できるようになったのは良いことだと思う。
- ・地域コミュニティという概念の中にこういう人たちを意識的に明示していくことは大事にしたいと思う。

■委員

- ・目的別コミュニティも、地域のコミュニティの構成員ということではなく、地域フォーラムの関係者のような位置づけとして、図も整理した方が良いのではないかと。

■委員長

- ・地域フォーラムの性質についてはかっちり決めることが難しい側面もある。大枠だけを

示した上で、後は例示の形で示していくしかないだろう。

(3) 再確認が必要な検討課題について

■委員長

- ・提言の内容とは直接関係しない部分についても、数多くのご意見をいただいている。こちらの内容については、今回と次回とで検討し、提言に組み込むべきものは組み込んでいきたいと思う。
- ・また、実効性の有無についてもご意見をいただいている。この点についても、何かご意見があればお願いしたい。

■委員

- ・コミュニティ協議会の委員を定年制にしたり在職期間の制限を設けるといった提案を行うことは、まさに自主三原則に反する内容ではないか。
- ・コミュニティ協議会の中で検討すべき内容で在り、仮にモデル事例を提示するというものであったとしても、本来は研連で取り扱うべき内容であろうと思う。

■委員長

- ・今回の提言でどこまで対応するかは難しい面があるが、意見として多かったことは無視できない。

■委員

- ・市長との意見交換会において、市長が行政も市民もコミュニティ構想を神話化しすぎているのではないかということと、自主三原則はコミュニティ構想ではないといったことを発言している。また、市民参加はすべてを市民にゆだねることではなく、行政参加もあって成り立つものであるとも発言している。
- ・この発言を鑑みると、コミュニティ協議会の運営は自主的で良いものの、ある程度バックアップをできるような体制を構築してほしいということではないか。

■副委員長

- ・コミセンの管理運営については、自主三原則の及ばない範囲がある。すなわち、指定管理者としての役割については、年間協定などの関係で、全館共通して実施しなければならないものがある。一方で、地域のコミュニティづくりは、地域のコミュニティにあったやり方で取り組むこととなっている。
- ・どこまで自主三原則が成立するのかについては、運営側にも誤解があり、この点は今後話し合いが必要である。
- ・また、委員の固定化等に関して、最初は特段任期等のルールを決めていなかった。しかし、会長職に関しては、一度会長になるとやめられないのかという不安を取り除くことと、就任した会長がいつまでもそこにしがみつくことを防ぐという両面から、協議会で会長の任期制がでていた。
- ・一方で、窓口は別として、運営委員は定年制を設けているところはないと思う。

■委員

- ・自治基本条例を考えないといけないという市長の発言もあったが、これはどういうことか。

■委員長

- ・ある程度枠組みが決まれば、その内容を自治基本条例として整理することも含みとしてあるという趣旨であろう。

■委員

- ・武蔵野プレイスで実施した市民意見交換会でも、管理運営について多くの意見が出ていた。
- ・当検討委員会の最初の頃に電子化について話をさせていただいたが、あらためてこうした意見をうけて、管理運営を高度化していくという観点から、電子化の動きがあっても良いのではないかと思う。

■副委員長

- ・今年の3月から研連のホームページを立ち上げて、16 コミセンの活動内容や施設内容などを掲載するようにしている。まだまだ周知されていない面もあるが、電子化については少しずつ取り組んでいるところである。

■委員

- ・あるコミセンで他のコミセンの施設の空き状況がわかるような仕組みはないか。例えば、利用申し込みのためにあるコミセンを訪問してその施設に空きがない場合、その場で他の施設の空き状況を確認できるような利便性の確保は必要ではないか。

■副委員長

- ・施設の予約は施設に行くことが必要であるが、空き状況の確認は電話でも可能である。コミセン同士だけではなく、利用希望者が自宅から確認することも可能である。
- ・けやきコミセンと中央コミセンと境南コミセンは、リアルタイムではないが空き状況をホームページで確認できるようにしている。研連でも、各コミセンのホームページの中に施設の空き状況を確認できるようにしてはどうかと提案しているが、更新作業を誰が行うのかなどの問題もあり、進んでいない。

■委員長

- ・これまでは、来訪側も窓口側もある程度知っている人であることを前提としながら、運営委員が窓口立って地域の状況を知ることが大事にしてきた側面があった。しかし、現実的には、窓口担当者が全く知らない人も多く来訪している。
- ・加えて、そもそもコミセンの実態や実情を知らない人が来ている中で、窓口におけるトラブルも発生している。
- ・こうした観点から、窓口業務は業務としてきりわけて、例えば行政が予算を確保して一部電子化するなどを行い、運営委員は他のところで地域を把握する、というようなことは、将来的にありえるだろうか。

■委員

- ・当コミセンの場合、空き状況の確認を電子化するだけでも2年必要であった。
- ・申し込みについては、コミュニティであるのだから相対して申し込むべきということが重要との意見も多く、また申し込みを電子化すると高齢者が利用できない可能性もあるなどから、まだ申し込みは窓口で対応することになっている。

■委員

- ・窓口では単に受付処理を行っているだけではなく、利用ニーズを把握しながら、必要に応じて別の部屋を勧めるなどの細かい対応を行っている。これはコミュニティがあっ

こそできることである。

■副委員長

- ・人と人をつなぐ上で窓口が重要であるという意見は、昨年のあり方懇談会でも出されたところである。
- ・地域防災計画の中で、武蔵野市は在宅避難を推奨しているが、在宅避難者に対してはコミセンが物資の配布拠点になると共に、相談機能を持つことが提言されている。
- ・これは、精神的なよりどころになれるのはコミセンしかないだろうという考えがその背景にある。実際に3.11の時も、近所にお住まいの高齢の方が怖いのでコミセンにいさせてほしいという事案があった。
- ・しかし、一方で、指定管理者として窓口担当者に不都合があってもそれを正せないという現状も問題である。
- ・16 コミセンでほとんどの窓口担当者はすばらしいが、中には自分勝手に考えている人がいたときに、それを改善する権限がコミセンに与えられていないのが実情である。それが窓口全体の評価の低下につながる可能性もあることから、窓口担当については一年更新とするなども検討されて良いのではないかと思う。

■委員

- ・指定管理者としての管理運営をコミュニティ協議会と切り離し、コミュニティ協議会はまちづくり活動を中心にするとの役割分担もあるのではないかという委員長の意見に関連してである。
- ・現在、あり方懇談会で窓口について議論している。窓口の対応については16 コミセンでさまざま違っているが、統一化すべきルールもあるのではないかと考えている。しかし、自主三原則があるためにルールを統一することすら困難であるのも事実だ。だが、コミュニティ条例の第9条では指定管理者制度における館の運営については、自主三原則が及ばないということが明確に書かれていることに気付いた。
- ・そういうことであれば、窓口業務については公募にするなどしてコミュニティ協議会から切り離してしまうという荒療治も必要なのではないかと感じたところである。

■副委員長

- ・窓口については自助的に回復できる余地はあるはずであるが、一部の顕在化している問題に対応できていない背景として、自主三原則に対する誤解によるものがあるのだろうとは感じている。荒療治までいかずとも、その誤解を解くことで解決につながっていくのではないかとも思う。

■委員

- ・face to face が重要ということは理解できるが、それであればあるほど、普段から関係のある人ばかりしか利用しないという状況も生み出す。
- ・IT を利便性の向上の手段として活用すると、先ほども指摘があったがデジタルデバイドの問題が発生するが、コミュニケーションツールとしてIT を利活用することは検討されるべきではないか。
- ・ただし、これを運営委員にお願いしても実感されにくいので、この点を理解できる人を巻き込んでいくことも必要だろう。
- ・face to face は今参加している人は参加しやすいかもしれないが、そうではない、働いて

いる人や子育てをしている人などへの参加を促すという観点も必要だろう。

■副委員長

- ・新しいツールを使うことで、今までコミセンに訪れなかった人が興味を持ったりという波及効果もあると思う。
- ・一方で、自分が働いていた時を振り返ると、そもそもコミセンを知らなかったという問題もある。気軽に立ち寄れるということをよく言うが、それがどういうことかについて消化し切れていない面もある。
- ・昔の状況から見れば、ずいぶんコミセンも変わっている。紙媒体の広報についてだけみても、最近は写真も増えて読みやすくなっており、こうした変化も評価されて良いのではないか。

■委員

- ・利用を増やすという観点ではそれも良いと思うが、コミュニティづくりにはつながらない面もある。

■委員

- ・それは、IT を単なる情報発信の利便性向上のツールとして利用しているからである。そうではなく、コミュニケーションづくりにも利用可能である。普段来訪できない人も、ネットワーク上でコミュニケーションをとることは普段から実施していることで抵抗感が少ない。こうしたところから関心を持ってもらい、イベントなどを通じて参加していくという方法もあるのではないか。
- ・今重要なのは、若い人の参加を促すことであり、そのためのコミュニケーションの新しいやり方としての IT の活用が重要だろうと思う。

■委員

- ・基本的にはすべての世代の人たちが利用できるコミセンになろうということを考えていた。意見を聞いた中でもそこは皆さん同じだろうと思う。
- ・一方で電子コミュニケーションでつなげていくかについてはそれぞれが考えていくことだと思うが、中間提言に盛り込むとするならば、いろんな世代を巻き込むための例示として示すことになるのだろうと思う。

■委員

- ・多世代の人の来訪をいかに増やすかについて努力し続けることが重要であり、関心を引きつける方法をいろいろと考えていただきたいというメッセージを、提言の中で発信していくことが重要だろうと思う。

■委員

- ・これからの時代を考えれば IT を活用していく方向は目指すべき方向だろう。

■委員長

- ・若い世代の参加を促すために、考えざるを得ないだろうと思う。
- ・今話していることは今回の提言に盛り込む内容なのかどうかよくわからないが、ひとまず様々な観点から意見を出していただきたい。
- ・予約まではできないにしても、いろんな情報が電子的なコミュニケーションで展開されるということがあっても良いのだろうと思う。

■事務局

- ・「市民活動かわら版」というフェイスブックページを1年前から立ち上げている。これには20代～50代までの幅広い層の参加がある。
- ・こうした中にコミュニティセンターの行事なども紹介しているが、利用層の関心を引くには至っていないようである。

■委員

- ・この委員会は「これからの」あり方を考えることであろう。そういう観点から、SNSなどのツール活用も必要であろう。

■副委員長

- ・武雄市はホームページをフェイスブックにしている。
- ・しかし、フェイスブックは双方向のやりとりになるが、登録しないと見られないという面が課題でもある。
- ・もう少し簡単な形で、例えばブログに書き込むことで若い人に発信していくことは簡単にできるのではないか。

■委員

- ・5年後ということを考えた場合には、まずは小学生とか青少協に絡む保護者との連携や、小学校との連携によりコミュニティと教育をつなげていくことが必要だろうと思う。
- ・それにより、保護者層が運営委員に就任するような動きが始まり、その結果としてブログを開設するというような動きになっていくのではないか。
- ・中間提言の中では、コミュニティを教育に絡ませていく、保護者に絡ませていくということを明確にしていきたいと思う。

■副委員長

- ・この前のあり方懇談会では、子どもを何時まで預かるかということが問題になった。
- ・それをどのように解決するのかを考えると、これこそフォーラムの形でしか解決できない。学校と地域とコミセンと保護者が相互に理解して話し合いをしながら、地域にとっての一番良い形を作っていくことが大事であろう。
- ・こうした会議を通じて、保護者もコミセンに対する関心やつながりが出てくるのではないかと思う。

■事務局

- ・委員の発言に関連して、これまで人材の参加はPTA・青少協・コミュニティというような流れがあったが、それがある時点から細くなってきている。
- ・その理由の一つとして、NPOに人材が流れていることもあるのかも知れない。

■委員

- ・コミセンが学校にアプローチして、あなたたちが大事であるということを伝えていくことが重要である。
- ・意識的にコミセンが各世代にアプローチする、そこに行政が絡んでいくことが大事であろうと思う。

■委員長

- ・学校の関係の他、市民社会福祉協議会との関係など他団体との関係で、フォーラムとは別に実際の関わり方の例があるのか、あるいはどのような関わり方があるのか、ということについて考えておいていただきたい。そういった内容であれば提言の中にいろいろ

と書き込めるように思う。

- ・また、マンション管理組合の会合をコミセンで実施しているということも聞いているが、マンションとの関係についてもいろんなパターンを知りたい。

3. その他

■委員長

- ・第 10 回までに、中間提言の修正案をつくるのと同時に、パブリックコメントへの回答を整理するようにしたい。
- ・また、本日残った部分についてご意見をいただき、第 11 回までにその内容を反映したいと思っている。

■事務局

- ・第 10 回委員会までに、参加しやすい場づくりとコミセンの機能・役割について各委員の方にご意見を別途お寄せいただけないかと考えている。事務局で様式・フォーマットは作成するため、メール等でご連絡させていただく。8 月 22 日ごろを目処に締め切りとしてお願いしたい。

4. 閉会